

ニューズレター

第46号

ごあいさつ

日本音楽療法学会北海道支部長 近藤里美

北海道支部会員の皆様におかれましては、日頃から支部活動・運営にご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

今年の9月28日・29日(27日は対面講習会を開催)に、第24回日本音楽療法学会学術大会が9年ぶりに札幌の地で開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により4年にわたるオンライン中心の大会を経て、久しぶりに対面を基本とする大会となりました。1,500名を超える事前参加登録をいただき、大会当日には全国各地からの多くの会員の方々や近接領域の方々など、約700名が来場されました。また、多岐領域に渡る11枠のオンデマンド講習には、5,196コマという大変多くの視聴申し込みをいただきました。おかげさまで大会期間中は晴天に恵まれ、爽やかな秋晴れのもと、まさに今回の大会テーマである「集い、繋がり、語り合う」学術大会となりました。

なお本大会は、11名の実行委員を中心に、学会本部担当の先生方や、道内の5つの福祉事業者を含む多くの企業や団体からのご支援をいただき、延べ30名の会員と学生ボランティアの皆様の協働作業により実現に至りました。北海道各地からはもちろんのこと、全国各地から大勢の皆様の参加により盛況のうちに閉会式を迎え、無事に来年度の大会にバトンを渡すことができました。ご協力いただきました皆様には心から感謝申し上げます。

今回のニューズレターには、学術大会の各企画の振り返りを掲載すると共に、大会テーマを反映したオリジナルグッズのクリアファイルを同封させていただきました。支部会員の皆様には少しでも大会の雰囲気や余韻を味わっていただければと思います。なお、大会オリジナルグッズの購入を希望される方がいらっしゃいましたら、まだ在庫がございますので、対応させていただきたいと思います。購入希望の方は、北海道支部事務局へお問い合わせください。

さて、本年度第2回目となる第44回北海道支部大会は、9月に全国学術大会を開催したことに伴い、通常の支部大会の代わりに講習会の形態にて開催することとなりました。特に、開催時期が冬本番となることから、多くの北海道支部会員の方々に参加していただけるよう、そして全国の会員の方々にも参加していただけるようにzoomでの開

催と致します。一人目の講師には医学博士で日本ポジティブサイコロジー医学会理事の海原純子さんをお招きします。音楽療法は一人ひとりの疾患、障がい、困難さと共に、その人の強みやリソースを総合的にアセスメントして、特にその人の潜在的な能力を十分に発揮できるように介入方法の適性を常に考えます。その意味では、クライアントの強みだけでなく、私たち自身のポジティブな側面は何かを理解することは重要だと思いますので、療法士として、そして現代社会を生きる人としての私たちの生き方についても学ぶことが多々あると思います。二人目の講師には日本音楽療法学会の第1回日野原賞を受賞された米国公認音楽療法士・日本音楽療法学会認定音楽療法士の上羽由香先生をお招きします。上羽先生のごつくばらんなお人柄と、音楽が脳・神経機能に及ぼす影響に注目した発達障がい児や認知症高齢者との幅広い実践や研究から、楽しみながら多くのことを学ぶことができるでしょう。



なお支部大会の参加費については、より多くの会員の皆様にご参加しやすく、そして多くの学生の方々の学びの場を提供することを念頭に設定いたしました。支部大会の参加申込、および資料配布、確認テスト/アンケート回答、参加証配布などは、これまで通り北海道支部ホームページにて随時進めて参ります。ぜひ定期的にホームページをご確認いただけますようお願い申し上げます。多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

最後に、今年度にて現支部評議員の任期が満了することに伴い、今年度末に実施予定の支部評議員選挙に向けて選挙管理委員会を発足致しました(日本音楽療法学会北海道支部会則第8条、北海道支部選挙規定第2条による)。今回の選挙は常例通りに郵送での投票を実施する予定です。準備が出来次第に事務局からご連絡を差し上げますので、皆様のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

第24回日本音楽療法学会学術大会報告



音楽療法士が実践現場を失わざるを得なかったり、音楽を発信する方法の変更を余儀なくされたり…と音楽の存在意義を



教育講演（市民講座）

教育講演は、甲地利恵先生に「アイヌの伝統音楽について～『カムイ』とのつながりを意識する」という内容でお話いただきました。甲地先生は、まず日本音楽療法学会による音楽療法の「音楽」の定義についてと問われました。そして、民族音楽学からみた音楽の定義の一つとして「人間によって組織づけられた音響」と説明されました。音楽療法での音楽と重なる部分もあるように感じたのと、私たちは常に音楽そのものの定義について意識している必要があることを再確認しました。アイヌの音楽については、音楽構造面からの説明もあり、



アイヌの音楽の豊かさ、多様さを知ることができました。音楽はアイヌの人々にとって、「生きるための真剣な努力」であり、「歌う・踊る」という行為をとおり、カムイと自分たち人間との関係を、絶えず意識して暮らしていたとのことでした。甲地先生の誘導で、会場全員で、ひばりの鳴き声「テーカーラテーカーラチチュ…」を模倣した歌や、「ヘトウヌブヘカラカラ…」と4パートの輪唱のようなものも体験をさせていただき、会場は盛り上がりました。北海道博物館や公益財団法人アイヌ民族文化財団のホームページには、アイヌの言葉、踊り、文化などが紹介されていると紹介され、訪れてみたところ、興味深い内容満載でした。

軽視されているような感覚を感じていたことと思います。また、その一方で、音楽が人を支え、勇気づけるという事実が報道されることに喜びや嬉しさを感じていたと思います。ですが、パンデミックが終わり、日常に戻りつつある中で音楽療法実践への制限が緩和されてくると世の中では“人が生きるために音楽が必要である”という感覚が鈍くなっていると思います。そんな中、本講演では存在意義や重要性を再確認する機会を得る事が出来ました。

また、音楽は人間にとって社会的な関りをするための重要な存在であるという結論を導き出してくださったご講演を拝聴していて、私たち音楽療法士は、今まで以上に脳と音楽の関係性について学ぶ必要があるように感じました。音楽がどうして効果的な結果を生むのかという事実を説明するための理由を知り、知識として理解し、そして実践に反映させていくことが音楽療法のますますの発展を生むことでしょう。

研究発表（口述・自主シンポ）

今回の大会においては多くの研究発表・自主シンポジウムに応募がありました。発表枠を増設したり中には口述発表からポスター発表に変更していただく等、発表枠を拡充させなければならぬほどの応募数となりました。最終的には口述発表ロング(40分)が4枠8セッション、ショート(20分)が12枠36セッション、そして自主シンポジウム10セッションが発表されました。

たくさんの方が発表が行われた中で参加させて頂いたセッションの一つとして児童を対象とした研究発表がありました。児童を対象とした音楽療法において、注意機能の向上を介入目標に掲げることは多く、実践を行う中でその効果を実感しプロ

基調講演

“人間の進化と音楽”をテーマとした基調講演は、音楽の存在意義、そして未来にとって音楽がなぜ重要なのかという、音楽療法士が問い続け、思考し続けなければならない話題について進化の歴史から最新の研究に渡る様々な観点から語っていただきました。COVID-19のパンデミックの中、多くの



第24回日本音楽療法学会学術大会報告

コラムに組み込むことも多いがその効果を定量的に実証した研究報告は少なく他職種のスタッフに効果を説明することの難しさを感じていました。

今回の研究発表では、ASD児の選択性注意機能(多くの感覚刺激のうち必要なものだけを選択する機能)にもたらず音楽療法の介入効果を定量的に実証し有意な結果が報告されました。このセッションでは、たくさんの質問やこの先の研究の発展に繋がる意見交換も多く出されていました。この先に繋がるとも素晴らしい研究発表だったという印象を受けました。

研究発表 (ポスター)

今大会のポスター発表は、対面と遠隔による発表形式を設けました。対面は発表者自らが会場に足を運び、作成したポスターを掲示し発表しました。一方、遠隔は罹災や被災および遠方により参加できない会員に対する措置として、ポスターを郵送し、当日はwebポータルシステムのSlack(スラック)を使い、メールのように文字のやり取りで質疑応答に参加しました。演題は55題、郵送はその内の21題でした。会場には展示も併設されており、常に楽器音が聞こえてきました。発表時間は楽器音を控えて頂きましたが、発表者にとっては、静まり返っているよりも適度に聴こえてくる楽器音にリラックスできたという報告もありました。ポスター発表は音源や映像が使えず、文字や写真で研究や臨床のプロセスを伝えることを特徴としますが、発表者たちは手振りも入れて熱心に伝えており、聴衆者も真剣に聴く姿が多く見られました。遠隔の発表者は、Slack(スラック)を使い、相互に質問し合うなど、充実した発表になっていたようです。

懇親会

仲間と集い、繋がり、語り合った久しぶりの懇親会が開催！北海道というと、ジンギスカンと美味しいビールでのおもてなししか思い浮かばず、「美味しい！楽しい！思い出」と、北海道に来てよかったと思ってほしいと、懇親会委員会で考えた余興が「M-1グランプリ」をもじった「MT-1グランプリ」の開催でした。全国から大会に参加し、その上懇親会で余興に参加していただけるのか…と委員も不安でいっぱいでしたが、なんと6組の応募をいただきました。「大会に参加してみても、懇親会にも出席したくなりました」と間際まで申し込みがあり、なんと170名の参加者になりました。アサヒビール園のホールは和気あいあいと盛り上がりました。気になる「MT-1グランプリ」の出演者をご紹介します。信越・北陸支部から「いちやれば2・6」長野医療衛生専門学校の



2名の学生さんでアコーディオンと三線を持参して『ハイサイ札幌』の演奏をしていただき、東海支部から「Unofficial 尾張御用達」2名で衣装もご持参された演奏は『セッションあるあるからのマツケンサンバ』、関東支部からは、2グループで「昭



和音大ザック」6名で「リフレッシュダンスで癒したい」と「北国の夏」2名で『真実はいつも一つ』の楽器演奏に“オタマトーン”の演奏も…そしてわれらが北海道支部から「ノースピアエンジェル」2名の歌姫で『リメンバーミー』の曲に、なんと仲間のパーカッション隊が参加されました。そして関東支部からは、理事長や副理事長たち6名からなる「ジョウニズ」は『夏の終わりのハーモニー』を演奏されました。審査は、会場の皆様の拍手をデシベル測定器で計測し、見事「いちやれば2・6」がグランプリとなり、大会グッズのTシャツを賞品として差し上げました。最後に参加者全員で『上を向いて歩こう』を合唱し、グランプリ出演者や参加者の方々と共に盛り上がることができ、笑顔で終了いたしました。“音楽っていいな!”と感じた夜でした。

大会グッズ

第24回日本音楽療法学会学術大会の新たな企画としてグッズ販売を行いました。世界音楽療法連盟を通じて海外の災害・人災被害国への音楽療法支援、および日本音楽療法学会信越・北陸支部を通じて令和6年能登半島地震の被害に対する音楽療法支援に活用してもらう目的で全純利益は寄付とさせていただきます。グッズのイラストは、一般公募で選ばれ、Tシャツ(L・M・S)・布バッグ・メモ帳・クリアファイルの4種類を作成いたしました。Tシャツは、宣伝を兼ねてスタッフやボランティアが大会中着用し、コンベンションセンターのロビーにて販売しました。全国の方々にお声掛けやSNSを使用し宣伝すると「素敵なので自分もTシャツを着たい」「お土産にクリアファイルやメモ帳を購入したい」「資料を入れるための布バッグを買いたい」などのお声をいただき、たくさんの方々に購入していただきました。中でも「このイラストは誰が書いたのですか？」との質問が多く、北海道医療大学の学生さんの作品だと説明すると「プロの作品だと思った」「北海道らしいものがイラストに入っていて素敵」などの感想をいただきました。開催中に早速使用した方からは「使いやすい」「着心地が良い」などのご意見もいただきました。沢山の方々に喜んでいただけたのは、スタッフやボランティアの皆様のお力と感謝いたします。皆様のお気持ちの寄付金が支援のお役に立ちますように…

第24回日本音楽療法学会学術大会報告

ミュージックセラピーコンサート

「音楽の癒し」「音楽のちから」をあらためて感じていただけるコンサートとして、音楽評論家・作詞家の湯川れい子氏、元環境大臣・医学博士の鴨下一郎氏が道先案内人となり、2022年から毎年開催されています。第三回目の今年は初めて学術大会に併せて、9月27日(金)17時から札幌コンベンションセンターの大ホールにて開催されました。大会参加している音楽療法士だけではなく、一般の方も多くご来場されていました。

出演アーティストは、脳卒中後に右半身麻痺や肺の機能を失いながらも建築家・左手のフルート奏者として活躍されている畠中秀幸氏をはじめ、楽曲制作やコンサート活動のほか教育現場「心を守る特別道徳授業」の実施など、ジャンルを超えた幅広い活動を行うピアニストの小川紗綾佳氏、北海道で1957年に設立されてから地元で愛され続けているHBC少女少女合唱団で、心に響く音色や歌声を披露しました。

最も印象に残ったのは、最後に出演者全員が「翼をください」を演奏後、出演者と共に湯川氏、鴨下氏、藤本理事長、そして会場の参加者が「ふるさと」を大合唱した場面です。年代やバックグラウンドも異なる私達が、声や音を合わせて一つの音楽を奏で、繋がり合う様はまさに「音楽のちから」を感じる瞬間となりました。

会員ボランティア

今大会では会員ボランティアさんと学生ボランティアさんを合わせて、3日間延べ30名の皆さんにご協力をいただき、大会を運営致しました。久しぶりの開催となった大会会場のコンベンションセンターはとても広く、その中で大会Tシャツを着用して走り回りながら、時間ごとに刻まれた業務をこなすのは、体力的にもそれはそれは大変なことだったことと思いま

す。また、最終日に「北海道の皆様のお手柄溢れる温かい大会でした」という何とも嬉しいご感想のお言葉を、お帰りにいただける参加者の皆様たちから頂きました。この「温かい」の言葉の中にはきっと、受付やクロークそして各会場などでの、ボランティアの皆様笑顔いっぱいへの対応への労いのお気持ちも含まれていたのではないかと考えております。皆様のお陰で無事終えることが出来ました。そして、それは参加者の方たちだけではなく、我々実行委員も皆様に励まされ元気をいただいております。

大会中笑顔絶やさず、粛々とお手伝い頂きました皆様に、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。

学生企画

今回の学術大会では、札幌大谷大学と北海道医療大学の学生が中心となって、全国で音楽療法を学んでいる学生有志による3つの企画が行われました。

一つは就職をテーマとした「先輩音楽療法士の体験記～働く先輩方とお話しませんか?～」で、zoomによるオンラインでの交流会でした。こちらは一般公開され、音楽療法士の仕事の実際について、様々な観点から話し合いが持たれました。

もう一つは、音楽療法を学んでいる学生の集いをテーマとした「卒論のテーマってどうやって決めているの?」で、こちらは学生限定でオンラインでの集まりでした。

3つ目は、ランチコンサートにおける学生有志の演奏で、「地域の旋律を共に楽しむ参加型ランチタイムコンサート」と銘打って、日本各地のご当地ソングの紹介を兼ねて、会場の方達と一緒に歌い、踊る内容となっていました。ランチコンサートでは最後に会場の人たちと一緒に「世界に一つだけの花」を歌い、歌を通して一体感を味わったり、交流を深めていました。

将来の音楽療法士の卵となる学生のパワーと熱気を感じ取ることができた、有意義な学生企画の時間となりました。



第44回日本音楽療法学会北海道支部大会のご案内

■日 時：2025年2月16日(日曜日) 13:00～16:30 **オンライン開催**

■プログラム(予定) ※都合により変更がある場合があります。

12:30 受付開始

13:00 オンライン講習開始

13:10～14:40 **講演【1】『現代のストレスとレジリエンス～音楽の果たす役割と希望～』**

講師：海原 純子 先生

(心療内科医・博士(医学)・ジャズシンガー・文筆家・昭和女子大学ダイバーシティ機構客員教授)

14:40～15:00 休憩

15:00～16:30 **講演【2】『問いを紡ぐ旅～注意機能を高める音楽療法の可能性～』**

講師：上羽(糟谷) 由香 先生 (PhD, MT-BC, RMT)

(米国公認音楽療法士・日本音楽療法学会認定音楽療法士・白菊園病院リハビリテーション科音楽療法士・京都大学大学院医学研究科客員研究員・高知大学医学部客員助教)

※今回は演題発表の募集はございませんのでご了承ください。

■定 員：100名

■参 加 費：会員:2,000円／一般:3,000円／学生(会員・非会員とも):500円

■申込期間：2024年12月19日 9:00 ～ 2025年2月3日 17:00 締め切り
期間内のお申し込みをお願い致します。

■申込方法：北海道支部ホームページ上の「支部大会参加申し込みフォーム」に必要事項を入力してお申し込みください。

詳細につきましては、随時北海道支部ホームページにてアップデートされますので、定期的にホームページにてご確認ください。

2024年北海道支部総会報告

事務局長 下出理恵子

2024年度の総会は、会員155名へ総会資料と書面表決書を郵送し、書面議決と致しました。過半数を超える94名から書面表決書が返信され、2023年度の事業報告と収支決算報告の承認、および2024年度の事業計画と予算案が原案通り可決されました。ご理解とご協力を心より

感謝申し上げます。

また、多くの会員の皆様から、評議員への温かい労いのお言葉もいただき、今後も支部の発展のために頑張っていきたいと思っております。

北海道支部評議員会より

①2024年度第1回評議員会

2024年6月24日(月)Zoom会議

- 報告事項 ・ 理事会報告・各委員会報告
- 審議事項 ・ 2024年度支部総会資料について

②第2回評議員会

2024年7月30日(火)Zoom会議

- 報告事項 ・ 理事会報告・各委員会報告
- 審議事項 ・ 第44回支部大会について
・ 第46号ニュースレターについて
・ 2025年度支部評議員選挙について

③第3回評議員会

2024年8月27日(火)Zoom 会議

- 報告事項 ・ 理事会報告・各委員会報告
- 審議事項 ・ 第44回支部大会について
・ 第46号ニュースレターについて
・ 2025年度支部評議員選挙について

支部会員の動向

2024年9月30日現在会員数名 151名

新入会員(敬称略) 牧田早加 岩崎有菜 鎌田梨里花 小川紗綾佳 加藤静恵

編集後記

会員の皆さまのご理解とご協力により、第24回日本音楽療法学会学術大会が盛況の中、無事終了いたしました。今後も会員の皆様にとって学びある企画・運営をいたしますのでどうぞよろしくお願い致します。

編集委員(近藤里美・常田いづみ・藤田悦子)

●事務局からのお知らせ

- 編集委員会では支部大会の様子を写真撮影しています。これらの写真は、支部ホームページやニュースレターに掲載することがあります。もし不都合のある方は、事務局までご連絡ください。
- 北海道支部では、支部の最新情報はもちろんのこと、学会本部や全国各支部からの案内を、随時支部ホームページに掲載しています。ぜひ定期的に支部ホームページをご覧ください。
- ご住所や氏名の変更のある会員、各種手続きが必要な会員の方は、学会本部事務局までお問い合わせください。※北海道支部では手続きができませんのでご注意ください！

メールリングリスト作成に向けてのお願い

皆様への情報提供やご意見収集を、迅速かつ経費節減で実現するために、支部会員のメールリングリスト（メールアドレス登録）作成を推進中です。このメールリングリストは、今後の皆様の支部活動を円滑に進めるために必要不可欠なコミュニケーションツールとなります。

皆様の大切な情報は、支部事務局で一括して厳重に管理しております。どうぞ安心して、以下の登録方法にてメールアドレス登録をお願い致します。所要時間1分です！

メールアドレスの登録方法

会員番号とお名前を明記して、jmta.hokkaido.reiwa@gmail.comまで、メールを送信ください。メールの受信を確認次第、事務局から返信させていただきます。

登録の際にご不明な点などございましたら、北海道支部事務局へお気軽にご連絡ください。

ホームページもご覧ください

▶ 一般社団法人 日本音楽療法学会ホームページ <http://www.jmta.jp/> ▶ 北海道支部ホームページ <http://www.jmta-h.jp/>

一般社団法人 日本音楽療法学会北海道支部事務局

〒062-0922 札幌市豊平区中の島2条1丁目3-25 カムオンビル

Email:jmta.hokkaido.reiwa@gmail.com